

## 上海万博 大阪フォーラム

2010年3月29日（月）

大阪国際会議場 12階 特別会議場

### 第1部

【司会】只今より、大阪国際フォーラム主催「上海万博 大阪フォーラム」を開会します。私は、司会の孔怡（こうい）と申します。どうぞよろしく願いいたします。初めに、大阪国際フォーラム会長・関西電力相談役の秋山喜久よりご挨拶申し上げます。

#### ■ご挨拶：大阪国際フォーラム会長・関西電力株式会社 相談役 秋山喜久

本日は大変お忙しい中、当フォーラムにご参加いただき誠にありがとうございます。大阪国際フォーラムは多くの方々のご支援により、昨年8月、大阪・関西における文化・経



済などの交流拠点である大阪国際会議場に設立されました。今後は大阪・関西の魅力向上や国内外への情報発信を目指し、積極的な活動を進めてまいりますので、引き続きよろしく願いいたします。

開幕を間近に控えた上海万博を紹介するフォーラムを開催することといたしました。上海万博の総合プロデューサーを始め、日本館、日本産業館、大阪館の責任者の方々が一堂に会するのは本日が初めてだそうです。

上海万博は今年5月1日から10月31日までの184日間、「より良い都市、より良い生活」をテーマに開催されます。世界から240を超える国や機関が参加し、会場の広さは2005年の「愛・地球博」の約2倍という、史上最大の万国博覧会となります。

ご承知のように、中国は経済発展が著しく、中でも上海は近年の中国の成長を牽引してきた都市です。上海は大阪の友好都市であるとともに、長期に滞在する日本人は48,000人と世界で最も多いなど、日本・大阪と極めて親しい交流都市でもあります。

そうした点から、上海万博には、日本館、日本産業館とともに、大阪府・大阪市も共同でベストシティ実践区に出展いたします。これを機会に、大阪の水都としての魅力を発信していくと同時に、世界最先端の環境技術が集積する都市である点も、大いに強調していきたいと思っております。

今回の上海万博は、大阪の歴史的な魅力、先進的な環境技術を紹介し、世界に大阪の素晴らしさをアピールする絶好の機会です。現在、奈良で開催中の「平城遷都1300年祭」に関する展示も予定しています。4月23日の大極殿のお披露目以降、平城宮跡で本格的なイベントが始まりますので、上海万博でピーアールして、中国からも多くのお客様をお招きしたいと思っております。

上海万博という世界的なイベントを通じ、大阪と上海の文化・経済の幅広い分野での交流を祈念して、開会の挨拶とさせていただきます。本日は皆様ありがとうございます。

【司会】続きまして、上海世博（集団）有限公司副総裁・高文偉様よりご挨拶をいただきますと思います。

#### ■ご挨拶：上海世博（集団）有限公司 副総裁 高文偉

桜の花が咲き誇るこの季節に日本へ参り、上海万博大阪フォーラムに参加できることを大変嬉しく思うと同時に、大阪国際会議場社長の萩尾千里様に感謝申し上げます。という



のは、私は2004年、萩尾先生のお招きで、関西経済同友会の上海市幹部第7期研修生のメンバーとして、日本に参ることができたからです。

その際の研修テーマは、「日本の万博の成功経験を学ぶ」でした。当時、萩尾先生が、「2010年の上海万博の会場は、黄浦江の両岸に公園をつくることにより、上海市の都市の品格がより高まるだろう」とおっしゃったことを鮮明に覚えています。そして、その言葉通り、上海万博エリア内と黄浦江の川沿いに、3つの公園ができることをご報告申し上げます。

2004年当時、愛知万博は開幕前の準備に忙しい頃で、「自然の叡智」というテーマが示す3つのR「リサイクル・リユース・リデュース」に、私は非常に深い印象を受けました。

ご案内の通り、上海万博のテーマは「より良い都市、より良い生活」です。グリーンと低炭素はこのテーマと密接に関連しています。私ども上海世博（集団）有限公司は、将来にわたって永久保存するテーマパビリオンと万博センターの建設に責任を負っています。それには、主題テーマ「グリーン、低炭素」を十二分に実行すべきだと感じています。

非常に多くの先端技術を取り入れ、例えば、テーマパビリオンの屋上に2.83MW規模の太陽光発電設備を設置しました。現状では、中国最大の単体の太陽光発電装置です。また、万博センターでもソーラーパネルを駆使する他、エネルギーを最も消費するエアコンに、河川の水源、地熱とポンプの相互利用、氷の蓄冷技術を併用し、建材には中空糸繊維を挟み込んだガラスを使っています。この他、雨水と雑水の集水利用システムを合体させ、浄化処理後の水を会場内の各施設で再利用します。

こうして、万博センターは中国初の「グリーン建築設計スリースター賞」等、数々の国際的な賞を獲得、特に、建材の有効利用と再利用に関しては、アメリカの「グリーン建築LEED金賞」授与ラインに入るなど、万博史上初のお墨付きをいただいています。上海万博の建造物・構造物にグリーンと低炭素の理念が実質運用され、かつ、万博の歴史にグリーンと低炭素の精神が遺産として残っていくことは、大変喜ばしいことだと存じます。

ご来場の皆様、上海万博の会期中、どうか会場へお越しく下さい。そして、私どものグリーン・低炭素建築をご覧になってくださいますようお願い申し上げます。謝謝。

## 講演 1

【司会】 それでは講演に移りたいと思います。初めに、上海万博総合プロデューサー・上海同済大学学長補佐の呉志強先生から、上海万博の概要をお話しいたします。呉先生は世界計画教育連合会主席、中国都市計画学会副理事長等など数多くの要職を兼務され、幅広くご活躍されています。

---

### 上海万博概要説明

上海万国博覧会総合プロデューサー

呉 志強

#### ■上海万博の背景

国連の人口統計によると、世界の人口は 2008 年から続々と都市部に集中し、2015 年頃には、全世界で約半分の人口が都市部に集中すると予想されています。



上海万博は、多くの人口を抱える中国の中でも、特に人口が集中した都市で開かれる一大行事であり、私どもにとって大きな機会であると同時に挑戦でもあります。「より良い都市、より良い生活」をテーマにグリーンな万博を目指し、次代に引き継ぐ新たな都市がどうあるべきかを、ともに考える場でもあると思います。上海万博は、184 日で延べ 7,000 万人の来場を目標にしています。1 日平均 40 万人、ピーク時には 80 万人と考えています。

上海の中心地域を流れる黄浦江の両岸沿いに、上海万博の会場があります。そして、上海の南側にメイン会場があります。1850 年頃、アジアの本格的な製造拠点として、上海に大規模な工場群が造られました。黄浦江の両岸には、上海港開闢（かいびやく）以来、各年代に建てられた大量の工場と古い建物が混在し、安全のために古い建物を撤去・改造する必要が出て来ています。中国は約 30 年前、改革開放の黎明期にようやく都市化が進み始めました。農村部人口の 30%が都市に移動し、あと数年でさらに都市部への集中は顕著になると予測されます。これまで、ニューヨーク、シカゴ、大阪などの大都市では、万博の成功を契機に都市化が進み、近代的な都市が形成されています。

#### ■持続可能な都市設計の理念

私どもが挑戦すべきテーマの 1 つは快適性、つまり、高温多湿の季節に少しでも良い環境でご見学いただくことです。また、黄浦江の両岸の関係をうまく保ち、古い町を新しい都市にするリノベーションもテーマとしています。

上海はこれまで 150 年の工業近代化に伴い、環境や騒音問題などが発生しています。こういう過去の教訓を踏まえ、少しでもエネルギーの消費を減らし、未来永劫にわたって生き続けられる都市となることを目指しています。上海万博を通じて、上海は「人と自然の調和・人と社会の調和・歴史と未来の調和」を理念に、ハーモニーシティを目指します。

百数十年にわたる工業化で犠牲となった環境、そこから出る矛盾、将来に向けて保存すべき上海固有の文化や遺産の保全などに関する、喫緊かつ必要な調和の演出です。



2004年から2020年までの都市改造計画で重要なことは、都市の持続性です。上海の中心部1.2 km<sup>2</sup>の面積に住む約1万人の住民の生活を脅かさないような住宅改造プロジェクトなど、都市建設の戦略を踏まえた上海万博の実施を目指しています。

## ■上海万博の概要

### 〈会場レイアウト〉

私どもは、外国の情報や経験を取り入れ、交流会等を数多く実施し、2004年に第1期構想を立てました。そして、最終構想で、黄浦江の手前側の川岸に全長6km、最大幅350mのプロムナードを造成しました。

アジアエリアには、日本館を始め、歴代の万博で最多のアジア各国・地域が出展。このエリアだけでは収容できないので、もう1か所、アジア・オセアニアエリアを確保し、タイ王国も出展します。欧州エリア、アフリカエリア、アメリカエリアもあります。

黄浦江の北側の工業団地だった場所には、その縁から、産業館など工業系統の企業館が立地します。同じ側の、地方自治体が集中するベストシティ実践区には、大阪館が出展します。そして、川の南側は、外国政府や国際団体のパビリオンが造られます。

### 〈環境に配慮しつつ快適さを追求〉

快適な環境を作るため、局所的な気象現象に一定の工夫を重ねたシミュレーションを実施しました。ソーラーシステムを駆使して、夏の日照時間が一番長い時に、建物にどれだけの日照があるかを模擬実験します。また、会場全域に渡って、各パビリオンの各階の高さごとに、窓を通る自然風の流れもシミュレートしました。

その結果、最も暑い時期でも、風速1.5~2m位の微風が、快適に館内をご見学いただくための条件だと考えられます。見学者が集中して暑くなる時間帯は、壁を開閉して、風が全体に行き渡るような吹き抜け構造を採用しています。最新技術を駆使した世界規模の都市における万博としては、史上初の試みではないかと思えます。

また、世界的に求められている緑化と低炭素化も重要です。このような一大事業を成し遂げるには、エネルギーの問題、水の循環と再利用の問題、会場で発生する大量のゴミの処理問題、そして、空気の問題という4つの課題があります。また、将来に向けたベスト

シティとなるには、充実した交通網の整理、多くの住民の住居と仕事の確保、そして、アミューズメントも必要です。

### 〈上海のあるべき未来の姿〉

黄浦江の西側は、古くから工業化・都市化された地域であり、浦東側は自然生態系の残る地域です。この2つの相反する地域を、互いに侵さず侵されず、調和・融合させることも上海万博の取り組みの1つです。浦西側に残っている歴史的建造物・建造物を保護・有効活用すると同時に、生態系を刷新します。そして、その東側にあり、「上海のあるべき未来の姿」を展示し、上海の未来を物語るのが上海未来館です。

上海には現在、延べ30万戸の老朽家屋が残っています。万博開催のために、その多くが移転を余儀なくされましたが、その際、市民の住居をいかに守り、未来どうあるべきかということも、1つの教訓として展示します。古い倉庫群の再利用、飛行機の組立工場を改造した喫茶店の展示もあります。そして、古い工場のショップは、テーマパビリオンに変身しています。

LEDの照明は、2004年の初期構想の段階から計画に入れていました。2010年にLEDがどれだけ普及し、将来どれだけ活用されるかを示すLEDパビリオンでは、館内は全てLED照明を採用しています。パビリオン間の道路もLEDの街路灯を敷設しています。また、ベストシティ実践区でも、非常に多くのLEDが活用される模様です。上海万博は世界初のトータルLED展示の場だとお考えいただければ良いと思います。

幾つかの代表的なパビリオンは、閉幕後も、未来に向けた新しい都市を演出するための施設として継続利用されます。上海には、大阪国際会議場ほど素晴らしいコンベンションホールはありません。今後、パビリオンのいくつかは、ファーストフード店や宿泊施設も備えた20万㎡規模の国際級の会議場として継続していく構想です。

現在1万人ほどが寄宿している万博村は、閉幕後、宿泊施設として再利用します。このエリアは各国の領事・高官が集中する場所になるので、外国公館の方々のお住まいにも利用されるのではないかと思います。

また、上海市には規模が比較的大きな、整った体育館や演芸場、劇場がないので、上海万博の演芸ホールは、閉幕後は上海市にお戻しし、市の本格的な演芸場・体育館として国際競技・文化芸術イベント等に活用していく予定です。

大阪の皆様は特に、未来志向、将来の予測に卓越した方々が多いとお聞きしています。2020年に向けて上海が発展を続けるため、そして皆様のお仕事のためにも、その準備に着手する今年、大阪の皆様方もご協力いただき、是非、上海へお運びください。そして、10年後の2020年の上海を占ってください。

多謝。

## 講演 2

【司会】次に、日本政府館の概要・見所などをお聞きしたいと思います。ご講演は、日本貿易振興機構の谷川浩也様をお願いします。谷川様は通商産業省入省後、東アジア大洋州課企画官、欧州連合日本政府代表部参事官、内閣参事官などを歴任されています。

### 日本館の概要と見所

日本貿易振興機構（JETRO）博覧会・渉外担当審議役  
兼 上席主任調査研究員 谷川 浩也

#### ■ ころの和・わざの和

日本貿易振興機構は、海外の万国博覧会での日本政府館の出展・運営主体としては長い歴史があり、今回の上海、2012年の韓国・麗水でも日本館を出展・運営します。



日本館に関する情報は、ホームページにかなり詳細に掲載しています。その中から、要点と最新の準備状況についてご紹介させていただきます。

日本館は面積が約 6,000 m<sup>2</sup>、高さ 24m で、過去の海外博で最大規模です。初の官民合同出展で、政府が財政資金を投入している部分以外に、22 の協賛企業・団体が参加し、最新の技術の展示についても積極的にご協力をいただいています。

テーマは「ころの和・わざの和」。人類が直面する温暖化など地球的課題を克服するための技術は、日本、特に民の得意分野です。その技術を生かしていくためには、地域・国・地球レベルでの人の心のつながりと協力が重要です。それが安心・快適・未来への信頼、ひいては上海万博のテーマ「より良い都市、より良い生活」を実現することにつながると考えています。そして、中国語で言う「联接」（リエンジエ）、つまり、「つながろう、調和のとれた未来のために」というメッセージを訴えています。

#### ■ 特色 1：ユニークな建築

日本館の 3 つの特色をご紹介します。第 1 に、建築がかなりユニークです。上海万博は、建築のユニークさでは過去の博覧会で最も優れていると言われますが、日本館は、環境技術を積極的に取り込んだ建築である点で非常にユニークだと自負しています。日本には縁の下や打ち水など、自然の力を利用して快適さを追求する伝統があります。その観点から、建物の床下など随所に縦穴状の空洞をつくり、採光や水を溜めるのに利用します。水が溜まることで空気が自然に循環し、館内の温度が何度か下がります。その他、お客様にお待ちいただく場所に、人工的な霧（ドライミスト）を発生させる装置を設置します。

外観の紅藤色は、太陽を象徴する赤と、水を象徴する青の和によって生まれる自然の色で、日光の変化や夜景の演出によってさまざまに表情が変化するように工夫しています。蚕に似ているので「蚕島」という愛称もいただいています。

## ■特色 2 : 多彩な展示・催事空間

### 〈ゾーン1・2〉

第2番目の特色は、多彩な展示・催事空間の展開です。ゾーン1では、遣唐使の時代を中心に、日中の歴史的・文化的つながりを紹介します。長いエスカレーターで3階に上ると、日本の春を象徴する桜が満開となり、日本の伝統的な茶室を再現した風景が広がります。自然や四季を慈しむ日本人の暮らし、日本人の美意識を感じていただくのが狙いです。



次に、春夏秋冬のさまざまな映像をお見せします。そして、伝統と未来技術のコラボレーションの最新事例を紹介します。NPO 法人京都文化協会とキヤノン株式会社の共同による社会貢献事業「綴プロジェクト」（文化財未来継承プロジェクト）が、文化財精密複製の最新技術を駆使し、「風神雷神図」（俵屋宗達作）、「四季花鳥図」（狩野元信作）、「老梅図」（狩野山雪作）など、有名な文化財を再現

したものを間近にご覧いただけます。

ゾーン2は、地球温暖化と水資源の問題を解決する技術をご紹介します。都市レベルで、二酸化炭素の排出をゼロにする「ゼロエミッションタウン」を、2020年の未来都市としてフォトジオラマや実物展示でお見せします。例えば、エコカー、人が踏むと発電する床発電、家庭用燃料電池、光を受けて発電する発電窓、有機EL照明など、約20の最新技術を駆使しています。また、日本は世界最先端の水の浄化技術を持っています。微生物で有機物を分解するバイオエヌキューブ技術の他、メンブレン、バイオリクター、海水を淡水にする浸透膜、オゾン処理技術の5つを展示する予定です。

人と人の協力が必要だという事例を紹介します。汚れて鳥が棲めなくなった愛知県の藤前干潟を、市民が自発的な協力によって清掃し、生活の中でもゴミの排出量を減らす取り組みをした結果、鳥が帰ってきた具体的事例から、自然の再生と環境保護を訴えます。

### 〈ゾーン3〉

最後のゾーン3は、ショー空間です。日本と中国が保護活動を行っているトキをモチーフに、里山を舞台としたプレショーと、日本の伝統的な木造のスペースで、音楽と演劇でメッセージを伝えるメインショーを予定しています。

NHKの「プロジェクトX」で話題になりましたが、30年近くに亘り、日本と中国がトキの再生のため協力してきた歴史をモチーフに、人々の活動と、心のつながりを大きく助けていく技術をご紹介します。日本で絶滅の危機に瀕していたトキが中国で見つかったと聞き、佐渡の高校の先生と研究者が日本のデータを送ったところ、それが中国で非常に役に

立ち、中国の人が人工繁殖技術を学びに佐渡に来ました。そのことで中国のトキが蘇り、中国側が恩返しのため、幾つかのトキのつがいを佐渡に贈り、放鳥しました。こうして、両国でトキが再生したという感動の話です。

ここでは、超高精細・超望遠機能の他、動画の撮影中、笑顔を認識すると自動的に抽出できる「ワンダーカメラ」を紹介。また、非常に精度が高く、巨大なものが撮れる「超臨場感フォト」は、自然の風景をそのままに、高さ6m、幅27mの巨大写真で再現します。

次に、最新のロボットをご紹介します。日本はロボット先進国として知られ、特に高齢化社会に向けて、介護・医療支援、家事支援など、人の活動をサポートすることを目的に官民で開発しています。その中で、人が親しみやすい二足歩行で、両手・両腕に内蔵した関節を非常に微妙に動かし、人間の手や腕の繊細な動きを実現します。今回は、その研究・開発成果を、バイオリンを弾くロボットのパフォーマンスで紹介します。

最後に、ショーのメインの道具として「ライフウォール」をお見せします。未来の家庭のリビングの壁がテレビと一体化し、本を開くようなジェスチャーだけで、様々なコンテンツを読んだり、世界と通信や会話もできます。世界最大152インチのプラズマディスプレイを3面組み合わせ合わせた映像壁面は、横幅10m、高さ2mで臨場感に溢れています。

メインショーでは、日本と中国が協力して保護活動を行っているトキの復活の物語をミュージカルにして、「こころの和・わざの和」のメッセージを伝えます。また、自由に移動したいという人間の願望を最少のエネルギーで叶えた1人乗りのパーソナルモビリティ「i-REAL」は、自然な操作で人の手足のように自由自在に動き、町の中に溶け込むことができ、周囲との「つながり」を実感できます。

### ■特色3：日中の「联接」

日本館の第3の特色は、日中のコラボレーションです。7,000万から1億人といわれる中国の一般の見学者に訴求していくために、非常に重要なことです。メインショーでは、日本から佐藤信さん、中国からダニー・ユンさんという2人の演出家を起用し、2人のアイデアで、日本と中国の伝統的演劇である能と昆劇を融合させた新しい試みを行います。出演するのは、京劇・昆劇の学校の子供たちで、大変感動的な歌声だそうです。

鳩山首相のメッセージビデオの最後の「联接」（リエンジエ）という漢字は、日本館の入口正面にも掲げています。「海外で活躍する中国書家100人」というリストの中でただ1人、日本に在住し、横浜を拠点に全国で活躍している熊峰（ゆうほう）さんという大変若い書家の作品です。

日本館は今、昼夜の突貫工事で準備をしています。5月1日には万全の体制でお客様をお迎えしたいと思っています。是非、皆様お越しいただければと思います。ありがとうございました。



### 講演 3

【司会】続いて、日本産業館の概要・見所などについて、上海万博日本産業館館長の秋岡栄子様にご講演をお願いいたします。秋岡様は日本長期信用銀行入行後、E&C ブリッジズ代表取締役、経済キャスター、テレビコメンテーター等、幅広くご活躍です。

## 日本産業館の概要と見所

上海万国博日本産業館

館長 秋岡 栄子

### ■運営の概要

本日はこの場にお招きいただき、ありがとうございます。そして、高先生、呉先生、華先生を始めとする皆様にお会いできたことを大変光栄に存じます。私どもの総合プロデューサー堺屋太一からも、先生方にくれぐれもよろしくとの伝言を預かってまいりました。



私どもの館の名称は上海万国博日本産業館です。外観は非常に大きな屋根があります。先ほど呉先生から、上海万博では歴史的遺産とも言える構造物を再利用するというお話がありましたが、当館はまさしく、上海に清朝時代から続いてきた旧江南造船所跡に、鉄工所の遺構の大きな柱と大屋根を生かして造りこむという手法で建築を進めています。

館の場所は浦西、旧市街地側の展示エリアの西側で、日本の民間企業と自治体の連合館として民間出展します。これまで、日本企業の現地法人が中規模博覧会に出展したことはありますが、今世紀を代表する海外の大博覧会に、日本の企業と自治体が企業館として出展するのは、今回が初めてです。

参加企業・自治体については、メイン展示出展は、INAX、大塚製薬、キッコーマン、帝人グループ、テルモ、トステム、日本郵政グループ、ユニ・チャーム。施設参加は、静岡県、横浜市、ダイキン工業、近鉄グループ、日本航空インターナショナル。営業参加は、コクヨ、SMBC コンサルティング、三起商行、白ハト食品工業、本家さぬきや、ベネリック。スポンサー参加として、シャープ、サラヤ、ファミリー、阪和興業などです。

総合プロデューサーは堺屋太一、副総合・展示プロデューサーは、食博の総合プロデューサーを務めた北本正孟、建築プロデューサーは日本郵政の寺崎由起、行催事・運営プロデューサーは地元大阪のTSP 太陽の林洋司が担当しております。

### ■基本コンセプト

テーマは「日本の創るよい暮らし」です。企業と自治体が知恵と力を合わせて、世界の方々に、日本の創るよい暮らしのご提案をさせていただきたいと存じます。

パビリオン設計理念と建築の特徴は、「リユース」「パルス」「サービス」の3つです。

リユースについては、鉄工所跡の再利用のほか、建築現場用の足場材を用い、万博終了

後も、中国のどこかで国家建設・都市建設の役に立てていただければと思っています。

パルスについては、全ての展示ブースをコンピュータ制御し、3分間ご覧いただいて、1分間で次へ移動することを、全館一斉に行います。この進化形が、コンピュータ制御で効率的かつ安全に人々が移動できる未来型都市のモデルとなることを目指しています。

サービスについては、ご来館される皆様方に対して、心からおもてなし・サービスを、展示・運営・ショップの隅々まで行き渡らせることを目標としています。

「リユース・パルス・サービス」を現代的な柔らかな表現にして、「きれい・かわいい・きもちいい」をお伝えします。今は中国でも日本のドラマが盛んなので、日本語が分からない若い人でも、会話の中で「かわいい」という言葉が使われます。「清潔である・きちんとしている・秩序立っている」など、いろんな意味のこもった、日本を象徴する3つの言葉をキーワードに、展示・サービスを考えて行きたいと思っています。

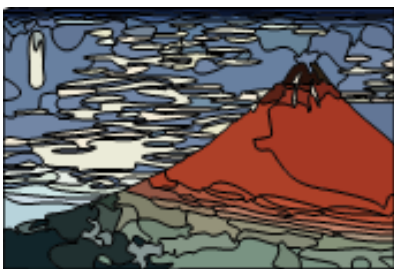
また、日本発の連合出展方式で、「多様性を生かす哲学—玉手箱型パビリオン」として、館の内外に、随所に工夫を凝らした展示をたくさん設置しています。その中の幾つかをご紹介します。

「百面劇場」は、シャープからお借りした百数十のアクオスを設置し、多くの画面が同時または時間差でさまざまな映像を映し出す、新しい映像技術の展示です。

「世界一トイレ」は、最高の技術・デザインの器具を設置し、世界一清潔で配慮の行き届いたトイレで、堺屋自身、テレビ番組で力説するほど、大変力を入れています。サラヤとINAXのご協力・ご協賛により準備を進めています。「世界一」というと、必ずほかの名乗りを上げますが、ここではそういう議論を越えた新しい概念、トイレとは何かということの世界に発信し、中国と世界のトイレの概念に革命を起こしたいと思っています。

パビリオンを覆う鉄工所遺構の大屋根には、「大天井画」を施します。日本を代表する画伯の絹谷幸二先生のご協力で、それまで絵画で表現されていたものを、LEDを駆使して大空間の中で表現することに挑戦しています。

## ■展示・施設の概要



シンボルマークは、古くても新しく、新しくても伝統のあるものの象徴として、堺屋が原画を葛飾北斎の赤富士と決め、内藤久幹先生に現代感覚でデザインしていただきました。

展示はいくつものブースにわたるので、入ってすぐ、まず全体を紹介するテーマ劇場があります。現在、日本に存在する一番大きな映画スクリーンを縦型に使い、これまでご覧になったことがないような大スペクタクル、こんなものがあるのかと驚くような映像をご覧に入りたいと思います。NHKエンタープライズに製作していただいています。

メイン展示は、「日本の創るよい暮らし」のテーマに沿って、メイン出展8社がそれぞれの分野で、「生命の星」（帝人グループ）、「3Dシアター医療の進化」（テルモ）、「人類と地球

のたからもの～大豆～」(大塚製薬)、「誕生の軌跡」(ユニ・チャーム)、「心の架け橋」(日本郵政グループ)、「夢のある暮らし 金門玉堂」(トステム)、「青花流水 Blue and White」(INAX)、「おいしい記憶を作りたい」(キッコーマン) をプロデュースいただきます。



ショップ・レストランは、「料亭 紫 MURASAKI」(キッコーマン)、「未来郵便局 体験館」(コクヨ)、「ミキハウス」(三起 商行)、SMBC コンサルティング (SMBC コンサルティング)、「たこ家道頓堀くる」(白ハト食品工業)、「おいもさんのお店らぼぽぼ」(白ハト食品工業)、「どんぐり 共和国」(ベネリック)、「日本美食」(本家さぬきや) が出店します。

日本の食文化を象徴する意味で、各店のミシュランの星の数を足すと6つにも7つにもなるような京都の有名な高級料亭から、地元大阪のたこ焼き屋さんまで出展いただきます。また、ジブリのどんぐり共和国は、中国での初めての本格的な商品展開です。SMBC コンサルティングは、日本全国の中堅・中小企業を募って、大変バラエティに富んだ、日本のものづくりの真髄に触れるような商品をご提供いただけることになっています。

施設としては、エントランスにダイキン工業に展示をいただき、同じく大阪に事務所をお持ちの工業デザイナー・喜多俊之先生が、物の展示という概念を覆す「高原の風」という風と空間のデザインをしていただきます。

その後に「百面劇場」があります。西側の壁面には、日本のビジネスマンの勤勉さを代表するロボット3体が、30分おきに梯子を上り下りしています。こちらについては、地元大阪のファミリー、池田銀行にもスポンサーとしてご協力いただき、また、東大阪を始めとする多くの中堅・中小企業の方々に、技術や意匠の製作協力をいただいています。

## ■おわりに

道頓堀の「くる」の大きなタコの看板のメスの方が、半年間、上海に“お嫁”に行きますので、大阪の皆様にはしばらく寂しい思いをさせますが、大阪と上海の架け橋として活躍してくれます。そして、私ども日本産業館一同、大阪万博の名を汚すことのないよう、上海で一生懸命がんばってまいりますので、是非ご支援をお願いいたします。

上海で、皆様のご来館を心よりお待ちしております。ご清聴ありがとうございました。

※文中、企業の法人呼称および敬称は略させていただきました。(フォーラム事務局)

## 講演 4

【司会】最後に、大阪館の概要・見所の紹介を、上海万博大阪館総合プロデューサー・大阪府立大学 21 世紀科学研究機構教授の橋爪紳也様をお願いします。橋爪先生は、大阪市立大学都市研究プラザ特任教授も兼任され、近著「創造するアジア都市」では上海の歴史性と未来性に深く切り込んでおられます。

### 大阪館の概要と見所

上海万博大阪館総合プロデューサー

橋爪 紳也

#### ■子供たちの夢をはぐくむ万国博

高先生、呉先生、華先生、本日は上海よりようこそおいでいただきました。大阪を代表して、心から歓迎申し上げます。



現在、大阪市営地下鉄や、関西の主要鉄道の駅などに、ご覧のような上海万博大阪館のポスターを掲示しています。大阪出身の故手塚治虫氏の代表作「鉄腕アトム」は、科学の子・心優しいヒーローとして、世代を越えて多くの人々の共感を得ており、手塚プロダクションのご協力で、ポスターに登場しました。

大阪館は、日本館や日本産業館のような大きなパビリオンではありませんが、大阪府・大阪市の出展は、日本の中で最も上海万博の告知・宣伝に協力しているということ、まずお伝えしたいと思います。

1970 年、大阪で日本万国博覧会が開催された当時、私は小学校 4 年生で、会場に 18 回も通って全パビリオンを見学しました。その時、将来は博覧会に関する仕事をしたいと思



いました。大阪には、そういう子供たちがたくさんいました。私の同世代で、実際に国際的な仕事についたり、通訳になった人が、大阪万博を契機に生まれています。

そういう意味で、上海万博も子供たちが将来に向けて、国際交流や環境技術に関して強い思いを持つ機会になればと願っています。私が万国博覧会の仕事をしたいという思いは叶い、前回のスペイン・サラゴサ国際博覧会では、日本館の展示アドバイザーとしてお手伝いすることができました。水や川をテーマとするサラゴサ万博

において、日本政府館は、水と共生してきた日本人の知恵と技を広く世界の皆様に伝え、高い評価を得ました。

この経験を生かして、今回は大阪館の総合プロデューサーという役割を引き受けることになり、非常に光栄に思っております。

## ■会場の準備状況

ご承知の通り、上海万博のテーマは都市に焦点を当て、世界中の知恵と技術によって、これからの都市がどうなっていくのかを提示する場になっています。世界の博覧会史上初めて、都市が集まって出展するゾーン、日本語では「ベストシティ実践区」が企画され、その中に、日本の都市としては唯一、大阪が出展することになりました。

ベストシティ実践区は浦西エリアの東端に位置し、1都市あたり 2,000 m<sup>2</sup>の単独館および共同館、そして、既存の建物を転用し、そこに都市ごとのスペースを割り当てる出展があります。

大阪は、共同館の B4-1 号館の数百 m<sup>2</sup>の広さの中に、ビルバオ（スペイン）、パリ（フランス）、ジュネーブ・チューリッヒ・バーゼル（スイス）、マルメ（スウェーデン）、プラハ（チェコ）と、それぞれの展示を競い合う形で出展します。

工事が着々と進んでいる会場の状況をご紹介します。浦東エリアを南の方から見ると、はるか彼方に四角い赤い屋根の中国館があり、さらにずっと北側に、UFO のような形をした巨大ホールが見えています。

黄浦江の対岸には、大阪館のあるベストシティ実践区の船着場があります。そこからすぐの所にイベント等を行う場所があり、その傍らに、博覧会施設に転用して再利用される旧工場の建物が立地しています。広場には、既存の建物の骨格を残してつくった展示スペースができています。ソウルとボローニャの 2 都市の共同展示場が白く見えています。そして、台湾のように単独で出展する都市は、1 つのパビリオンを改築して展示館にしています。

ベストシティ実践区においても、各建物が LED で非常に美しい夜景を演出しており、世界の博覧会史上、最も美しい夜景が実現することと大いに期待しています。

## ■大阪館の概要

大阪館の基本テーマは、「環境先進都市・水都大阪の挑戦」で、大阪の技術力と、水を生かした大阪の豊かな暮らしを世界にアピールすることを掲げています。昨年度、私がプロデューサーで実施した「水都大阪 2009」の精神を継承したいと考えています。

大阪の出展する B4-1 号館の工事は、順調に進んでいます。工場を転用し、天井の窓から光が入り込む中で展示を行います。

大阪館のファサードは、FM802 のアートプロジェクト「digeout」と共催で公募を行いました。全国から応募があった 125 点の中から、審査の結果、大阪で活躍する若いアーティスト・形部一平さんの「NEW WORLD」という作品を採用、未来の道頓堀、未来の水都をイメージする外壁を展示館の前に飾ります。

館内は 3 つの展示ゾーンで構成しています。

1 つめのゾーンは、「桜のトンネルとジオラマ」で、大阪を代表する春の風物詩、造幣局の「桜の通り抜け」の体験をしていただきます。大阪市が地下深くに建設している防災用トンネル「なにわ大放水路」を模したトンネルの壁面一面に、満開の桜を映し出します。



大阪・関西を紹介するとともに、水都大阪の発展の歴史を、水を中心とした環境改善への取り組みの成果を含めて、ジオラマや映像で紹介します。

2つめのゾーンは、「光と水の映像ショー」と特別展示です。大阪の歴史と現在の水辺の賑わいの映像を上映し、シアターを出ると、豊臣時代の大阪を代表する特別展示を展開します。1つは、近年、オーストリア・グラーツ市で発見された、大阪の城下町を活写した「豊臣期大坂図屏風」を原寸より拡大して展示します。大阪が水路に沿って発達した町であることを、再評価して示すものです。



また、秀吉が築城した大阪城の金のシャチホコのレプリカを陳列します。道頓堀のタコと、大阪城のシャチが現地で競い合うこととなります。その他、秀吉がつくらせた世界最大級の大判の複製品を展示

します。江戸時代につくられた金貨の複製品です。

3つめは、「環境先進技術／関西の魅力」紹介のゾーンで、大阪の企業や大学等が持っている、環境に関する技術等の展示を行います。燃料電池やヒートポンプのほか、大阪大学の手で触れるとエネルギーに変わるという技術、水に関する技術等の展示もあります。

大阪市立大学と飯田産業は、オーロラを人工的につくる技術を用意します。大阪府立大学は、現在進めているロボットの技術と合わせた植物工場の実験プラントのモデルを展示します。そして、関西の各府県・市の観光情報等の展示が続き、出口付近には、中国で大人気のハローキティの関西版キャラクターグッズを並べています。新聞等を見ると、中国ではハローキティはアメリカ生まれだと誤解している人もいるようなので、展示の最後に、日本生まれのコンテンツであることをアピールしたいと思います。

## ■おわりに

大阪と上海とは長い友好の歴史があります。今年は、大阪万博が40周年、鶴見緑地の花と緑の博覧会が20周年を迎え、上海万博が10周年記念を迎える2020年には、大阪万博は50周年になります。今後、大阪と上海が、是非10年おきに博覧会を記念して記念事業を実施、未来に向けて交流を続けていくことを提案させていただき、私のプレゼンテーションを終わります。

ご清聴ありがとうございました。

## 上海万博 大阪フォーラム

### 第2部

【司会】 只今より第2部に移らせていただきます。初めに、外務省関西担当特命全権大使の田邊隆一様からご挨拶をいただきます。

#### ■ご挨拶：外務省関西担当特命全権大使 田邊隆一

この6カ月の間に、23件の外国の要人を関西で接遇いたしました。中国からは、唐家セン(\*1)日中友好21世紀委員会座長、楊潔チ(\*2)外務大臣、汪洋広東省党書記らをお迎えしました。外国の要人に対しては、常に関西の重要性を説明しています。



上海万博を目前に、本日このフォーラムを開催されることは、誠にタイムリーかつ有意義です。日中両国の関係は、例えば経済関係が示すように、ますます深まりつつあります。そして、日中両国が、アジアおよび世界の安定と繁栄のために責任を負う国として、「戦略的互惠関係」の構築を進めています。

このように緊密化する日中関係の動きの中で、大阪の友好都市である上海で万博が開催されることは、両国にとってのみならず、大阪・関西にとっても大変重要です。万博を契機に、日本の環境エネルギー技術の先進地域である大阪・関西と、上海・中国との経済関係が大きく深まるだけでなく、観光・文化等、幅広い分野での協力・交流が進み、両国国民間の相互理解が大きく深まっていくことが重要であると思います。

大阪・関西が日中関係の強化の先導役・牽引役となっていくことを期待するとともに、本日のフォーラムの成功と、上海万博の成功を祈念いたしましてご挨拶いたします。

ありがとうございました。

※(\*1)セン=王へん+旋／(\*2)チ=竹かんむり+がんだれ+虎



【司会】中華人民共和国駐大阪総領事・鄭祥林様が、ご多忙の中、第2部よりご臨席賜っております。総領事よりご挨拶をいただきたいと思っております。

### ■ご挨拶：中華人民共和国駐大阪総領事 鄭 祥林

あと1カ月と1日を過ぎると、世界が注目する万国博覧会が、上海で幕を開けます。今回の万博が幅広く注目を集めるのは、人口の多い発展途上国での初めての開催だからでしょう。人々は、万博の後の中国と世界のつながり、中日関係の将来の発展に注目しているでしょう。



ご承知のように、30年間の改革開放政策を経て、人民の努力により、中国は急速な経済発展を遂げ、社会は顕著な進歩を遂げ、国民生活は明らかに改善されました。ただし、その発展の過程で同時に、民生や環境保護など、多くの問題と圧力に直面していることも見逃してはなりません。日本などの先進国のように、環境が美しく、空気がきれいで、国民生活が豊かな国になるには、中国はまだ長い間

の努力が必要です。中国は将来、全面的な発展を実現しても、国民はやはり日本や世界の人々と一緒に、平和で美しい未来を創っていくことを決意しています。

間もなく開幕する上海万博は、中国と各出展国にとって1つのチャンスだと信じています。万博という窓を通して、世界は中国のことをもっと理解できるようになるでしょう。世界各国の間にも、学び合い、交流し合うステージが出来るでしょう。

日本・関西の各界が、私の思っていた以上に上海万博に情熱を傾けておられることに感動しています。ある日本の友人が、5年に1度の万博で、海外で開催されるものを、日本人がこれほどの情熱で迎えるのは素晴らしいと言っています。中日2000年間の友好交流だけでなく、両国国民間の深い友情、両国の交流と協力関係が日増しに発展している喜ばしい現状、そして、日本の官民一体の中国発展への理解と支持というもの全てが、日本国民が上海万博に注目する原動力の源になっていると思います。

日本の友人の皆様の上海万博観光を衷心より歓迎するとともに、出展者の皆様が、発展理念と科学技術を中国に持ってきてくださることを切に望んでいます。日本の3つの館は最も人気のある館だと信じています。

最後に、本日お招きいただいた主催者に厚くお礼申し上げます。このフォーラムの成功を衷心よりお祈り申し上げます。どうもありがとうございました。



## 第2部 パネルディスカッション

### 上海と大阪の経済・文化交流 今とこれから

**【司会】** それでは、パネルディスカッションを始めさせていただきます。パネリストは、上海側から、復旦大学世界経済研究所所長の華民様、上海万国博覧会総合プロデューサーの呉志強様、上海世博（集団）有限公司副総裁の高文偉様。大阪側から、レンゴー株式会社代表取締役社長の大坪清様、関西国際空港株式会社相談役・関西経済連合会上海万博応援団長の村山敦様です。進行役は、大阪国際フォーラム専任副会長の萩尾千里です。

#### ■上海万博への期待と日中役割（上海側から）

**【萩尾千里】** これからの世界は都市の時代となります。多様な選択肢、快適な生活環境がある都市に人材が集まり、都市を発展させると思います。上海万博を機に、上海も人中心の都市へと舵を切って行かれることでしょう。そこで、日本と中国、上海と関西が友好交流を深めていく上で、上海万博において果たすべき意義や期待についてお聞かせいただきたいと思います。まず、華民先生、お願いします。

**【華民】** 私の専門分野である世界経済の観点からお話ししたいと思います。

上海万博は、上海の経済発展を進める大きな契機になると思います。一国の経済成長を促進するには、幾つかの生産要素が必要です。既に数百年前、世界の著名な経済学者が、資本を重要な生産要素として提唱しました。加えて、労働力と土地、そして技術が必要となり、そこから知識が派生します。



このうち、資本・労働・土地・技術は、過酷な世界の競争の中で切磋琢磨されますが、唯一、知識は、全人類が共有できる富です。この富を活用しながら、お互いに伸びていくことが非常に重要です。成長の過程でいろいろな経験を蓄積し、知識が豊かになります。その知識を生かし、

土地・労働・資金を使って、例えば、構造物を建てることができます。

残念ながら、中国は長期にわたる知識の欠如により、最近急速に経済成長していますが、世界的に遅れをとってきました。ですから、上海万博を契機に、世界各国の知識をどんどん学び取り、これからの発展につなげていくことが喫緊の課題だと思います。

歴史上、世界中でさまざまな困難や問題が起きてきました。昨今の世界的経済危機もその一例です。しかし、困難な時期を経て、初めてそれを克服する手法が発見されます。日本の皆様方は、幾度かの危機に瀕し、それを乗り越えた経験という宝があります。それが、中国の経済発展に非常に役に立つと思います。

**【萩尾】** 続いて、呉さん、お願いします。

**【呉 志強】** 上海万博を契機に、上海と大阪・関西の関係がより密接化・強化されると思います。それには3つの理由があります。1つは、新たな転換が上海にも関西に出ていることです。1990年代以降、上海は非常に急速な経済発展を遂げ、2010年以降は、持続的発展が可能な都市に変身していくでしょう。とりわけ、知識・知財等の取引、生態系や環境を守る産業等が続々と台頭してきたことが、1つの大きな転換です。



2つめの理由は、上海を中心とする揚子江デルタ地域と、大阪を中心とする関西地域は共通点が多いためです。未来に向けた新しい都市・地域づくり、将来への夢と理想を踏まえて、両地域が連携できる新しい都市開発プロジェクトは、非常に多くあります。例えば、新しい交通システム、高齢化に伴う老人介護産業、新エネルギーの駆使など。

ただ、両地域の交流は歴史的に非常に親密ですが、庶民の家庭に滞在した経験のある人は少ないと思います。上海万博を契機に、大阪・関西から来られる皆様は、上海の庶民の生活に直接触れ、生活の実態、ものの考え方、未来への構想を実感してください。そうすることで、双方の市民が調和し合うことの重要性がわかるでしょう。上海と大阪・関西が連携できる産業と、人と人とのつながりが、これからの新しい都市づくりに大いに役立つと思います。そのためには、しっかりとした機構、組織が不可欠だと思います。

**【萩尾】** 万博に直接関わっておられる高さんに、上海と大阪・関西の関係をどう生かしていくかという点から、もう少しお話をお願いします。

**【高 文偉】** 上海万博は、1970年の大阪万博同様、中国にとって非常に大きな意義があり

ます。そして、上海と大阪・関西の人的交流をさらに緊密化するのに、非常に役立つ大事業です。第1部で、大阪・関西の方々、上海万博に非常に注目し、多くの方々が見学に来てくださるとお聞きして、非常に心強く思っています。



呉教授のお話と重複し、昼食時にも話題に上ったことですが、私の個人的願望として、大阪の方々、上海万博に来られる際は、是非、上海の一般家庭に逗留し、庶民の生活を実感していただきたいと思います。日頃、我々

がお互いを理解する主な手段は、新聞・テレビ・ラジオ・雑誌などのメディアです。しかし、それだけでは、場合によっては間違った報道により誤解が生じたり、一方的な見方に偏ってしまったりする危険性は否めません。

お互いの家庭で生活することで、本当の意味でお互いの考え方を理解し、未来に向けて、夢と抱負が分かち合えると思います。大阪・関西のお客様が住まわれた時、上海の人たちは、謙虚な気持ちでご意見やご批判を甘んじて受けたいと思います。

## ■上海万博への期待と日中役割（大阪側から）

**【萩尾】** 高さんは、日本での研修の際、大阪万博と愛知万博を丹念に調査して帰られたので、今回の上海万博は相当すばらしいものになると感じています。次に日本側から、大坪さんをお願いします。

**【大坪 清】** 1970年の大阪万博は、過去の万博で最高の6,400万人が訪れ、大成功を収めました。当時、千里の私の自宅のすぐ近くに、万博で働く海外スタッフが滞在する10～15



棟のマンションの万博村ができました。各国の方々は週に1度、交歓パーティーを開き、私もよく招待されました。外国のスタッフが住むインフラを提供することで、大阪の国際化が非常に進んだのです。上海万博でもできれば万博村をつくっていただいて、各国のスタッフ同士が交流できるような状況が出来ればと思います。

大阪万博が成功したもう1つの理由は、三波春夫さんの歌う『世界の国からこんにちは』が大ヒットし、日本中が盛り上がったことです。上海万博でも、有名な、できれば美人の女性歌手がテーマソングを歌い、それが日本でもヒットすれば、非常に成功すると思います。私が中学生の頃、津村謙さんの『上海帰りのリル』という歌が非常に流行りました。日本には、上海を題材にしたポピュラーソングは非常に多いのです。

大阪万博では、世界中の新しい科学、文化、そして、アミューズメントの開発が大阪に集結し、発展しました。そして、大阪万博が成功したことによって、日本が本当の意味で高度成長を遂げたわけです。

上海万博は、2008年の北京五輪以上に成功して欲しいと思っています。技術や文化の開発と同時に、平和の象徴となる歌や遊び心も、日本に持って帰れるようにしていただき、日本・大阪で上海ブームを起こさせるような仕掛けを是非お願いしたいと思っています。

**【萩尾】** 大変な情熱を込めてお話いただきました。次に村山さんをお願いします。

**【村山 敦】** 関西経済連合会で、観光や都市創造、国際関係の委員会に属する30数社が集まって上海万博応援団を結成し、関西空港社長をしていた私が応援団長の役割をいただき



ました。関西を代表する企業の集まりがこのような決定をしたのは、日中関係が関西にとって最も重要と考えているからです。大阪府も大阪市も、上海と長年の友好都市の歴史があります。東アジアとともに生きることが、これからの関西の選択肢です。

上海万博の入場者は、大阪万博の6,400万人を確実に抜き、1億人を超えると思っています。上海万博と大阪万博には、もう1つ大きな共通性があります。大阪万博の時、私は新婚3年目でした。1960年代の日本は、まだオイルショックや為替の変動相場の前で、ぬくぬくとした環境の中、脇目も振らず高度成長に走り、そのまま万博が始まりました。

上海万博のテーマは、持続可能な発展の重要性を謳っています。振り返れば、「人類の進歩と調和」をテーマとした大阪万博も、日本が高度成長一辺倒から、世界に目を向け、成長の果実を個人が享受する豊かな生活へ切り替える1つの契機になりました。同じように、すさまじい発展を続けている中国が、「より良い都市、より良い生活」を目指した取り組みに成功できれば、素晴らしいことです。

私どもも、7月28日の「なにわの日」を中心に、大訪問団で上海にお伺いする予定です。上海万博を機に、上海と大阪・関西の交流が強化されると同時に、交流のレベルも上がることを期待しています。そうすれば、関西国際空港も繁盛し、嬉しいことです。

## ■日中の抱える経済面の課題

**【萩尾】** 上海万博のテーマは、中国を始めとするアジアの国々との経済・文化の交流を活性化させ、生活の質を上げていくことでもあります。その際、経済面ではどのような問題があり、どうすればもっと活発な交流ができるか、大坪さんにお聞きします。

**【大坪】** 私は、1990年に国貿促関連の桜内ミッションの一員として北京に行き、長富宮の国貿促の事務所を拠点に、中国の経済改革についていろいろな話をしました。

当時の中国の首相は李鵬首相でしたが、李鵬首相の改革開放後の中国経済についての指導の中で印象に残っているのは、「中国が改革開放経済を進める原点になるのは、宏観調控（マクロ経済）の導入だ」という言葉でした。当社は段ボールメーカーですが、1991年、初めて本格的に中国への進出を決定し、大連・北京・天津・青島・上海・広州・中山と立て続けに工場をつくっていきました。以来、いろいろな拡大拡充政策を行っていますが、本当の意味の宏観調控は浸透していない面があると思います。例えば、許認可制度や規制について、我々はもう少し理解を進めなければいけません。

当社が中国に工場をつくったのは、世界中の企業が中国に進出し、中国が世界の生産工場となったため、輸出用の包装材料が必要だったからです。現在ある8つの工場は、2005年までほとんど赤字でしたが、懸命な努力と技術指導が功を奏して、6つが黒字になりました。2つの工場の赤字は、新しい機械を導入する際の許認可と、労働法制が原因になっています。諸先生方には、真の宏観調控をお進めいただければと思います。

**【萩尾】** 華先生はずいぶん前から、日本は技術大国、中国は生産大国という分業を提案しておられます。今の意見も踏まえて、日中の役割分担についてお聞きしたいと思います。

**【華】** 世界には大別して、欧州・米国州・アジア・中国という4つの経済共同体があります。米国州の共同体はイノベーション力が強く、欧州共同体は神秘性と芸術性に富んだ高級品の競争力で勝っています。日本が世界で最も長けているのは、新しい技術を発明する技術です。中国には、米国や欧州、日本の競争力を十二分に活用できる土壌があります。

日本人の中には、中国に新しい技術を移転することに不安を持つ方がおられるようです。

が、それでは、新しい時代の両国のビジネスの障害になり、日本の技術開発力も立ち遅れてしまいます。両国の経済関係は日々進展し、中国経済は今後も高度成長が続きます。中国は、日本が過去に経験した困難や、そこで得た新しい知識を必要としています。

中国は、都市化のためのマクロコントロールも必要です。日本の多くの過疎地が、時代を経て都市化を実現させました。人口密度の非常に高い中国の一部地方都市が都市化をコントロールしていくには、日本の経験が必要です。環境についても、日本は高度成長期に公害という大きな損失を経験し、それを克服して、現在の日本経済を実現させました。

また、不動産価格についてもお聞きしたいと思います。大阪万博の頃と現在では、地価はかなり変わっていますか。万博誘致が決定してから、上海の地価は高騰し、それに伴って万博のコストも跳ね上がっています。

もう1つ、高度成長を遂げた日本と同様、中国もアメリカとの貿易通商問題を抱えています。アンチダンピング制裁、一方的な輸入制限や保護主義、人民元の為替レート切り上げなどの経済的圧力により、貿易立国として苦境に立っています。特に民間の立場で、日本がこういう問題をいかに克服されたかをお聞きしたいと思います。



#### ■経済発展に伴う諸問題

**【萩尾】**生産関係をもっと拡大して相互関係を構築して行くと同時に、人的交流をもっと活発に行けば、経済効果はさらに上がると私は思います。パナソニックさんもレンゴーさんも、貿易問題を経験しておられますので、今の質問にお答えいただきたいと思います。

**【村山】**関経連の調べでは、上海特別市に進出している関西企業は528社、うち大阪の企業は380社です。パナソニックも中国・東アジアに数え切れないほどの工場があり、国内工場はどんどん閉鎖しています。華先生から技術移転のお話がありましたが、中国で売れる製品をつくるには、中国で設計し、中国人の技術者を揃えなければいけません。パナソニックの中国工場は現地人が増え、だんだん日本の会社でなくなっているのが現実です。

日本の製造力を追い込んだのは、為替やいろいろな貿易摩擦です。中国のGDPは今や日本を追い越し、かつて日本が欧米から非難され、円を切り上げられたのと同じだけの影響力を、世界経済に与えています。経済が発展すれば、外から圧力がかかるのは当然です。

とはいえ、特にパナソニックのような消費者向けの商品を本格的に開発・製造できるのは東アジアだけなので、共存共栄が不可欠です。互いに得意な分野で分業し、グローバル連結で勝ち残る。会社は経営陣も含めて多国籍化していくというのが我々の考え方です。グローバル化が進んでいる企業は、恐らくそう考え始めていると思います。

一方、日本は「観光・環境・健康」の「3K」を促進しながら、そこでの技術開発力と生産力で食べていくことも重要です。ありがたいことに、世界的な大不況にも関わらず、中国だけは日本への観光客の数が減っていません。中国の中でも上海はニュータウンなので、日本の奈良や京都へ、昔の中国の建物を見に来ていただきたいと思います。

現在、関西空港から上海には、旅客便が週 70 便、貨物便は 37.5 便飛んでおり、ソウル便に次ぐ多さです。今年は搭乗率が 8~9 割になって、航空会社が悲鳴を上げるほどになって欲しいと思います。両都市の交流がさらに緊密になり、東アジア経済共同体の関係も並行して進展していけば良いと思っています。

**【萩尾】** パナソニックさんは最も早い時期に中国で生産を始めてられたので、今のご意見は説得力があります。大坪さんは、華先生のご質問についてどうお考えですか。

**【大坪】** 人民元についての話は非常にデリケートな問題で、慎重に扱う必要がありますが、元の為替レートは 1 ドル 8.028 元から、現在は 6.8 元まで上っています。今の流れから考えると、もう少し元が強くなっても良いですし、それが世界経済をさらに安定発展させる材料になると思います。

日本と中国の非常に大きな課題は、やはり環境問題だと思います。先ほど、中国が生産拠点になって世界の発展に寄与していると申しましたが、それには必ず負の部分、例えば、二酸化炭素の排出や、バイオケミカルによる酸素の消費が伴います。

今、世界で年間 280 億トンの二酸化炭素が発生し、そのうち 20 数%ずつをアメリカと中国が排出しています。日本はわずか 4.5%の 13 億トンです。鳩山首相が 25%削減を国際公約しましたが、日本が発生をゼロにしても 13 億トンしか減りません。世界が本当の意味で二酸化炭素対策を進めるには、中国とアメリカが努力していただかなければいけません。

1991 年にレンゴーが中国に工場進出した当初、中国での段ボールの総生産量は日本の半分でした。ところが、2000 年には並び、09 年には 4 倍になりました。当然、二酸化炭素の発生も日本の 4 倍になります。このへんに、世界中が取り組むべき環境の問題があると思います。

**【萩尾】** 環境問題について、日中がもう少し連携できれば良いと思います。呉先生、何かお考えはありますか？

**【呉】** 現在、世界で太陽光発電パネルを最も多く生産しているのは中国、最もよく使っているのはドイツです。ドイツに 10 年滞在した経験からお話をします。ドイツで使用されている中国製の太陽光発電パネルは、1 平米のもの 1 枚で、1 つの発電所の 20 年間の発電量に匹敵するパワーを持っています。中国でエネルギーを消費し、二酸化炭素を発生させて生まれた太陽光発電パネルが、未来の 20 年間、ドイツでクリーンなエネルギーを提供することになり、ドイツ人は大いに誇りを持っていると感じました。

50 億トンの二酸化炭素を排出しているのは中国とアメリカということですが、1 人当たりの発生量や発生させ方が根本的に違います。昨年アメリカに行き、外国の要人を迎える大きな饗宴に招かれました。ある高官が、「このご馳走が食べられるのは、調理人が厨房で相当なエネルギーを使って調理したおかげだ」と言いました。店長・料理人・客は、そ

それぞれの立場で、料理を作る、食べるということを享受しています。二酸化炭素排出量に関して、全てを横並びで考えるのは平等ではないと思います。

## ■会場より発言

**【萩尾】** それは、もっと時間をかけて話し合うべき問題ですので、次回、機会を設けて、お互いの問題として解決するようにしたいと思います。時間の都合で次の話題に移りたいと思います。日本全国、そしてパリでも活躍している大阪出身のファッションデザイナー、コシノヒロコさんは、最近、上海での活躍が多いそうです。本日は仕事のため当フォーラムに出席できないので、ビデオでメッセージをいただいています。

### ビデオメッセージ ファッションデザイナー コシノヒロコ

皆様こんにちは。大阪国際フォーラムの副会長の1人として、本来は会場に伺って皆様と直接お話しすべきなのですが、東京での仕事のため、このような形で失礼いたします。大阪は世界の中の先進都市です。先進都市は、自ら情報を発信し、世界のいろいろな情報を取り入れながら行動していく非常に重要な役割を担っています。

30年前、私は大阪の友好都市・上海で、日本人デザイナーとして初めてファッションショーを開催しました。そして3年前、上海国際芸術祭に参加し、英国の非常に有名な音楽家マイケル・ナイマン氏とのコラボレーションで、2,000人以上の観客を前に大きなイベントをしました。中国人モデルを起用して春夏秋冬の全コレクションを発表、さらに上海のバレエ団の踊りを交え、後半はマイケル・ナイマン・カルテットの演奏会という壮大な催しでした。国際都市・大阪出身のクリエイターとして、中国・上海に日本のファッションを持ち込み、発信するという使命をもった参加でした。

しかし結果的に、その行動を大阪がどう捉えてくれたか、私には掴めませんでした。大阪は文化への理解が非常に鈍いのです。身をもった発信や行動をきちんと評価し、うまく利用して、文化を切り口に、上海との相互交流をもっと深めていくべきだと感じました。

昨年、台北でショーをしました。台湾の人たちは非常に積極的で、こちらが発信したものをどんどん受け入れ、大変上手に利用します。日本もそういう情報を、もっと活用すべきです。本当の意味での交流は、そういうことだと思います。

そういう意味で、今回の上海万博は、大阪にとっても非常に重要です。上海の人たちのエネルギーを得て、日本の中での力を蓄積し、海外に向けて発信していかなければと思います。国際交流を通じて、上海万博が良い結果を出されるよう、皆様をお願いいたします。

**【萩尾】** コシノさんから大阪に対する苦言をいただきましたが、大阪も必ずしも発信していないわけではありません。コーヒーブレイクでお召し上がりいただいた「堂島ロール」

は、株式会社モンシュシュの双子の姉妹が開発し、堂島の本店も百貨店の店舗も、行列をしないと買えないほど全国的なブームになっています。上海万博では日本産業館の近くに店を出して販売し、その後は、浦東の世界金融センターに出店するということなので、大阪からの大きな発信です。会場に金さん姉妹がお越しですので、一言お願いします。

**【金美花・金春花】**皆様、初めまして。私たちは5月1日から半年間、上海万博に出展する運びとなりました。堂島ロールはもちろん、堂島



フロマージュ、クッキーシューなど、大阪の皆様慣れ親しまれた味を上海にお届けし、中国、そして世界中の皆様にご紹介したいと思っています。大阪から発信したこの味が世界に通用するか、まずチャレンジしたいと思います。そして、この味を通じて、世界の方々に大阪、特に、堂島・中之島の地名をもっと知っていただき、世界の方々に足を運んでいた

だけの観光地となるための架け橋となって、がんばってみたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

**【萩尾】**大阪からの発信はいろんな形があります。中国でケーキを食べていただくのも大変良いことなので、是非がんばっていただきたいと思います。次に、大阪大学招聘教授の高島幸次先生からご発言をお願いいたします。

**【高島 幸次】**本日の話を聞きながら考えていたのは、個々の人間にDNAがあるのと同様、都市にもDNAがあるということです。大阪のDNAは、日本の都市の中でも非常に稀有なものです。長い歴史の中で、大阪ほど都市の性格を変えてきた町はありません。

最初は難波宮が置かれ、港を有する政治都市、日本最初の港湾都市・国際都市でした。



都というと奈良や京都を思い浮かべますが、奈良や京都には港がありません。その後、都が移った後は、四天王寺や大阪本願寺の寺内町として発達しました。江戸時代には経済都市、近代には工業都市となりました。歌舞伎や文楽を生んだことを考えると、当時は日本最先端の前衛都市であり、懐徳堂や適塾を考えると、日本最高レベルの学問都市でした。

時代ごとに、これほど性格を変えて発展してきた町は他にありません。しかもこのDNAは、姿を変えながらも、過去に経験した性格を復活させるという特徴があります。例えば、古代の都が移った後、秀吉の大坂城築城によって再び政治都市に戻ります。近代になって、大久保利通の大阪遷都論は、成功はしませんでした。復活の動きでした。

大阪が日本最初の港湾都市として発展したことは、戦国時代に堺が日本最大の港として



大陸との交易の窓口になったこと、そして、関西空港ができたことにつながります。大阪のDNAは、絶えず東アジアに開かれた都市なのだと思います。

私は日頃、町づくりや市民運動に関わっています。一般市民にとっては、経済的なことより、歴史に裏付けられた話にこそ説得力があります。本日のような具体的なテーマを実現していく中で、大阪がそういう町であることを広めていくことが重要だと思います。

大阪国際フォーラムが、ここ大阪国際会議場に設立されたことには、大きな意味があります。ご存知のように、江戸時代、中之島には100を超える藩の蔵屋敷が建ち並び、全国の米や物資の流通拠点になっていました。その歴史になぞらえて、私は中之島を「知の蔵屋敷」として見直そうと言いつづけており、平松市長も記者会見でその言葉を使ってくださいました。国際会議場を舞台に多くの知識が行き交い、外に拡がり、何かが始まる契機となるこのようなフォーラムを、今後も是非、続けていただきたいと思います。

**【萩尾】** おっしゃる通り、提言ばかりでは意味がありません。今回のフォーラムも、上海との交流を深めることを1つのきっかけとして、行動に移しています。次に、同じく大阪のポテンシャルを実現することにご尽力されている、財団法人大阪21世紀協会理事長の堀井良殷さんにご発言をお願いいたします。

**【堀井 良殷】** 上海万博の大成功は間違いないと思います。しかし、祭りやイベントに長く携わってきた経験から申し上げますと、祭りの後に何を残すかが重要です。上海万博の後は、大阪万博と同様、人々のライフスタイルが変わるでしょう。万博を契機に、ライフスタイルが大きく変わるとすれば、その1つに、上海と大阪の共通文化圏のようなものができていくのではないかと思います。



高島先生のお話のように、上海と大阪は文化・経済・政治交流の長い歴史があります。村山さんのお話のように、関空から上海に1日10便、週70便の旅客機が飛んでいるのなら、乗り合いバスで行くような感覚で上海に飛び、ビジネスや観光交流をして、日帰りもできるほど、2つの都市はコンピューター圏内になります。

1つの提案ですが、これを機会に、大阪国際フォーラムに音頭を取っていただいて、「上海・大阪合同文化圏構想」というプロジェクトを始めていただけたらどうでしょうか。経済交流と文化交流は表裏一体であり、一緒に進めなければいけません。それを、上海万博が残すレガシーとしてご提案したいと思います。

## ■日中文化センター構想

**【萩尾】** 急速なグローバル化と、交通・情報・通信の飛躍的な発展により、時間と距離が非常に短縮され、国と国との壁も非常に低くなってきています。そうになると、文明も多元

化していきます。文明の根底には文化があります。文化はライフスタイルなので、国ごとにみんな違います。そこに、科学技術や普遍的な制度・仕組みが加わって文明に昇華するのです。

根底に文化がある以上、文明も普遍ではありません。ですから、多様な文化を受け入れ、文化の面でお互いを理解しなければ、必ず摩擦が必ず起こります。昔はゆったりしていたので、あまり激しい摩擦は起きませんでした。今のように短時間でお互いが近づくようになると、摩擦は大きくなってきます。ですから私は、これからは中国に限らず、世界との文化交流がかなり重要になってくると考えています。高さん、いかがでしょう。

**【高】** 一歩進んだ文化交流を推進していくというご提案に賛同します。両国の経済交流は、これまで非常に順調に実現してきましたが、文化交流を進めるための実務的な組織体や、一定規模の文化交流活動は、あまり活発ではなかったと思います。

10～20年前、日本の映画やテレビドラマが中国に持ち込まれ、大ヒットしました。私の妻や娘も『東京ラブストーリー』などのドラマが大好きです。しかし最近では、日本のドラマより、韓国ドラマやアメリカ映画の方がよく観られるようになりました。中国、日本、アメリカとも、それぞれ自国の文化を生み出す固有の方法があります。私は、文化交流をさらに促進・充実することが、国民の相互理解をさらに進化させる大きな作用を持つのではないかと期待しています。

私個人としては、密接な文化的友好関係を現実しなければ、本当の意味での経済交流の進展は難しいと考えています。両国の経済交流をより充実・向上するために、まず基礎となる文化交流の焦点を何にするかを語り合う時代に入っていると思います。

**【萩尾】** 華先生いかがでしょうか。

**【華】** 私もやはり、文化交流がなければ、持続可能な経済交流関係は構築しにくいと思います。しかし、私の研究で言うと、例えば、日本が18世紀から蘭学に傾注したことなど、日中が文化交流を進める上で、障害があることは否定できません。

先ほど高島先生からお聞きしましたが、時代の変遷に合わせて変身し、ある時期が来たら過去に遡って復活させるという意気込みが、脈々と生き続ける大阪のDNAは非常にすばらしいと思います。柔軟性のある大阪の活力は、そのDNAが生み出すのだと思います。

また、日本の映画やドラマが、今の中国ではあまりヒットしないという話がありました。映画やテレビ、ファッションも1つの文化の受発信ですが、形式的な交流であり、交流の真髄は突いていないと思います。本当の交流の真髄は他にあると思います。

**【萩尾】** 大坪さん、何かコメントはありますか。

**【大坪】** レンゴーは日中間でテレビ会議を行っているのです、その辺は十分理解し合ってい

と思います。2週間ほど前、中国から日本に対して、黄砂という大変な贈り物がありました。文化交流も重要ですが、このような自然現象も、お互いに知恵を絞って防ぐような交流も重要だと思います。

**【萩尾】** 村山さんはいかがですか。

**【村山】** 日中は、観光では壁を越えましたが、文化交流はもっと草の根レベルでなければ壁を乗り越えることはできません。両国間には、公式には当分解決できない2つの問題があります。中国の政治体制と、戦争責任などの歴史認識です。しかし、中国に工場を出し、現地の人と触れ合ってみると、これらは何の障害でもありません。それを一般の民衆レベルで理解し、何とか壁を乗り越える方法を本気で考えていかなければいけません。

もう1つの壁はビザです。企業や地方政府の身元がはっきりした人でも、なかなかビザは降りません。一般の人や文化人となるとなおさらです。文化交流をスムーズにするためには、日本政府ももう少し配慮してもらわなければいけません。文化的な機関、大学や研究機関、劇団などが、もっと人材交流を積み重ねることが必要だと思います。

**【萩尾】** 確かに、歴史認識など難しい点もありますが、私は、中国のいろんな方と付き合い、率直に話し合う中で、だんだん信頼関係が深まって行くのを実感しています。そうして壁を乗り越えなければ、いつまで経っても原点でこだわってしまいます。

例えば、今回の冷凍餃子事件を、私は非常に高く評価しています。国内だけで収まることならまだいいですが、国対国の問題なので、まだ民主化の進んでいない中国が、犯人逮捕を公表するか不信感がありました。今回、思い切って発表したのは、中国が国際社会で生きていくというメッセージだと思います。中国もそういうスタンスを続けていけば、付き合い合えば付き合い合うほど信頼関係は出てくると思います。

ここまでの討議を受けて、従来型ではなく、未来に向かった文化センターを、上海と大阪につくるという計画にご賛同いただけますでしょうか。

**【呉】** 日中双方による日中文化センター構想に賛同します。万博を経験し、万博以降、より良い都市となった大阪、そして、間もなく万博が開幕し、万博以降の都市づくりをにらんだ上海、それぞれの持つ貴重な経験と実績を踏まえて、日中文化センターを構想・準備・組織化していくということはいかがでしょう。



**【萩尾】** 鄭祥林総領事も、上海政府の幹部の方も、是非つくるべきだにご賛同いただいていますので、何とか努力したいと思います。どうぞよろしくお願

いたします。本日は、長時間ご清聴ありがとうございました。